

第1回 南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会（会議概要）

日 時：平成30年2月9日（金）午前10時～午後0時20分

場 所：南風原町役場3階 庁議室

出席者：平良尚正、上地安郁、金城宏孝、當銘順二、大城恵美、野原貞夫、島袋隆志、
砂川晃輝、金城正秀

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 町長あいさつ
4. 委員自己紹介
5. 会長及び副会長選任
6. 諮問
7. 議事
 - 1) 南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について
8. その他
9. 閉会

配付資料

- 【資料1】南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 【資料2】総合戦略取組状況の検証方法
- 【資料3】平成28年度 施策評価シート（南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略）
- 【資料4】外部評価シート（南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略）
 - ・南風原町人口ビジョン及び南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略
 - ・南風原町人口ビジョン及び南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略【概要版】
 - ・南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会条例
 - ・南風原町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会名簿
 - ・[平成28年度 施策評価シート] に関する質問用紙

【委嘱状交付】

町長から委員への委嘱状交付

【会長及び副会長の選任】

自薦・他薦がなかったことから事務局腹案を提示し、会長に島袋隆志委員、副会長に金城宏孝委員が全会一致で選任された。

【諮問】

町長から島袋会長へ諮問

【議事の概要】

□会 長：それでは、事務局より説明をお願いします。

■事務局：総合戦略策定の経緯と本町の人口動態について説明。

※パワーポイント及び資料1・2・町総合戦略（別冊）を使って説明。

■事務局：基本目標1の各施策の取り組み状況及び内部評価について説明。

※資料3を使って説明。

□会 長：今の説明について委員の皆様から何かご意見などありましたらお願いします。

□会 長：保育園も150人の待機児童がいるということでしたが、幼稚園、小学校の児童も同様に増えていると考えてよろしいですか。

■事務局：はい。津嘉山小学校や南風原小学校等では、クラス増や増築（H30年度予定）等をして対応している状況です。

□会 長：沖縄海邦銀行さんと沖縄銀行さんは大きいローンセンターも作っていますが、直近の動向はどうですか。やはりマンションや戸建てが欲しいなどの要望は多いですか。

□委 員：南風原町は、転入してくる方も子育て世代など若い世代が多いと思います。

待機児童の問題については、保育園を新設するにしても、今いる児童は幼稚園や小学校に進学するので、これから転入してくる児童とのバランスを考える必要があると思います。町としてもそういうバランスをみて検討していくのか。

■事務局：担当課では、事業計画の中間見直し（29年度中）が予定されています。その状況をみて平成31年度の待機児童0に向けて進めていきます。

また、教育部では総合戦略策定時には5歳児のみであった幼稚園の受け入れについ

て、4歳児まで受け入れるように拡充しています。4歳児が認可保育園から幼稚園に移行することによって認可保育園の枠を空けることができるので、関係課で協力して待機児童解消に向け取り組んでいます。

□会 長：銀行には、転入に伴う住宅ローン等についての相談は多いですか。

□委 員：はい。南風原町は県内でもトップ10に入っている市町村だと思います。

町の人口が増加しているのは、中学生まで医療費助成を行っているとも要因だと思います。

先ほど認可保育園の話がありましたが、最近では、企業内保育所という取り組みも良く聞きます。豊見城市の豊崎には「トヨプラ」という施設があり、そこに地域の保育所を開園したという事例もあります。

南風原町にもイオン琉球さん等大きな企業もあるので、そこで地域の保育所を開園する取り組み、そういった目線も必要ではないかと思います。

□会 長：基本目標2の企業誘致との兼ね合いもありますので、その辺で提案もできるかと思っています。

□会 長：基本目標1のもう一つの施策「生きる力を育む教育環境の充実」で小・中学校において、色々な企業の人事担当者がキャリア講話、模擬面接を行っているようですが、これは団体を通して依頼している形ですか。

■事務局：依頼については、本町生涯学習文化課の地域支援本部のコーディネーターが行っています。

□会 長：大城委員の会社は県から人材育成の表彰もされているかと思いますが、町の取り組みについてはどう思いますか。

□委 員：実は私も小学校でのキャリア講話に講師として参加させていただきました。

知り合いのお子さんは、小学生の時に働く方々とふれあいをして、そのときの記憶が、職業選択の理由の一つになったということも聞いています。小さいときにどういう風に働く人たちと関わるかというのは大事だと感じていますので、さらに活発に取り組んでもいいと思います。

□委 員：「生きる力を育む教育環境の充実」の平成28年度実績91%と81%ですすでに平成31年度の目標値を上回っている。これは28年度の実績値は踏まえずに平成27年度の現状値から算出した目標値であるためか。

■事務局：はい。そうです。

今回、目標値に対して実績値が70%を越えている場合を、「順調に進行」と評価しています。事業としては継続して実施するものですから、現時点で目標値を上回っているが、それを維持していくという形にしています。

また、担当課に確認すると、南風原町のアンケート結果は他の市町村と比べて高い数値になっています。28年度の数値としては良い結果がでていたのでそれを維持できるようにしたいと考えています。

□委 員：「子どもが安心して育つ環境づくり」に関連して、保育士のなり手がいないという話も聞くが、現状はどうか。

■事務局：細かいところはわからないため、担当課に確認して報告したいと思います。

担当課からは保育士を確保することが大変であるとの話は聞いています。本町以外でも保育士を募集している市町村がありますので保育士の待遇面を予算化して他市町村よりも優位な条件を提示して確保していきたいと聞いています。

□委 員：保育士を育てる施策ということですね。

■事務局：町では保育士の待遇面の支援として、認可保育園の保育士等に対して1人当たり、月額3,000円の助成を行っています。

□委 員：全県的に保育士不足なので、保育士は取り合いになると思います。

そこは厚遇してあげて所得向上しないと、南風原町は那覇市が近いので良い保育士に南風原町で働いてもらうためにはそれなりの給料を支払わなければいけない。町からもその支援は必要。

□委 員：八重瀬町は2016年に待機児童ゼロになっています。

保育園を新設し、解消したようです。そういった取り組みも調べてみてはいかがでしょうか。

■事務局：八重瀬町の状況はわかりませんが、先ほどの保育士確保に向けての取り組みについては担当課に確認しまして報告したいと思います。

□会 長：次の基本目標に移りたいと思います。

■事務局：それでは、基本目標2と基本目標3の施策の実施状況を報告して、委員の皆様からの意見を受ける形にしたいのですがよろしいでしょうか。

□会 長：わかりました。

■事務局：基本目標 2 及び基本目標 3 の各施策の取り組み状況及び内部評価について説明。

※資料 3 を使って説明

□会 長：ありがとうございました。

基本目標 3 の人材バンクは、学校が必要とする人材の発掘とありますが、基本的にはどういったことをするのですか。

■事務局：こちらに記入されている人材バンクのほとんどは学校を応援する地域支援本部に登録されているもので、学校が必要とする人材を講師として派遣しています。今後は学校以外に活用するための人材の確保も検討する必要があると考えています。

□委 員：手上げ方式による事業実施の内容を教えてください。

■事務局：手上げ方式による事業実施については、自治会や各種団体のみなさんがこういった事業に取り組みたいことがあれば提案していただくというものです。現状は補助事業等がある場合に区長会や町のホームページでお知らせしています。

□委 員：他府県でやっている市民提案型の共同事業みたいな感じですか。

行政とタイアップして実施していく。そういった内容と思いますが、情報を的確に地域におろす方法を深めていく必要があると思う。

■事務局：提案内容が募集している要項等に合致していれば、町も一緒になって申請して取り組んでいくという内容です。

□委 員：確認したいのですが、「地域産業の振興」の新規就農者数は給付金を受けている者に限っているから 2 人ということか。

■事務局：給付金を受けている方に限っているかと思いますが、給付金受給者に限らなければ新規就農者数はもっと多いのでしょうか。

□委 員：そうですね。

□会 長：委員の方で、新規就農者数について把握されているものがありますか。

□委 員：今日この会議があるということで担当課長に確認したところ、5 名ということでした。

■事務局：これは 28 年度だけでですか。

□委 員：そうですね。給付金を受給していない方は含まれていないのだろうと思います。

■事務局：担当課からは、26年度で3人、28年度は2人で報告を受けています。
当銘委員から28年度で5名いるということでしたの担当課に再度確認してみます。

□委 員：「食を通じた地場産業振興事業」が停滞という事になっていますが、南風原産のかぼちゃなどは本土市場に送った方が値段も高いので一般農家の所得向上の意味合いで地産地消が難しいところがある。

□委 員：3ページ目の「地域に根ざした産業育成」のところですが、指標として「かすり会館来館者数」とありますが、かすり会館への来館者数だけでかすりの評価ではないのでないか。例えば平成29年1月には花織が国から伝統的工芸品として認められた。こういう所を評価としてあげられないと、ただかすり会館への来館者数が増えたから減ったからだけではなく、ちゃんとブランド創出にはなっているし、停滞といわれると言葉が足りないのではないか。またかすり組合は会館だけでかすりを展示しているわけではない。例えばふるさと博覧会の際にかすりのファッションショーなどもやっているし、物産展でも発表会もある。そういったイベントへの来場者数も数えるなどしないと、会館の来館者数だけで評価して停滞となると語弊があるなどと思います。

□会 長：KPIの指標について、表記の検討が必要ですね。

■事務局：次の審議会に向けて、検討させていただきたいと思います。

□委 員：4ページ目の「新産業用地の整備促進」ですが、例えば南城市は那覇広域都市計画から外れ、大手企業が工場を移設している。移設は工場のみではなく、本社も移すよう交渉していた。それにより税収もあがっている。こういった形で1,000坪、2,000坪、10,000坪ということで開発が隣の市ではできている。南風原町でも可能だと思う。MICE建設もありますので、ここ5年くらいが南風原町にとっては肝心の時期になると思います。

□委 員：企業誘致のことについてすこしよろしいですか、南風原町の方からがよく聞く意見として南風原には宿泊施設がない。その点については、経済界の方から見てどうですか。

□委 員：やはり必要だと思います。名古屋グランパスのキャンプを何年前から誘致していますが、南風原町にはお金が落ちていない。宿泊施設は必要だと思います。ただし、用途地域が全然違う、用途地域の変更が優先だと思います。

- 委 員：企業が手狭になった事務所などを移したいと思っても法律の壁でできない。
そこら辺を根本的に直していかないと今ある事業所がよそに移ってしまうことになりかねない。農地との兼ね合いもあるかと思いますが、用途地域の見直しも必要だと思います。
- 会 長：那覇市との関連もあってなかなか難しいとは思いますが、用途地域の見直しが必要なんだという発信は必要だと思いますので、今日出た意見を事務局から担当課に戻していただければと思います。
- 会 長：もし、他に意見などがなければ、議事については終了したいと思います。
次回は本日報告のあった実施内容について評価、また、金城副会長からありました計画に掲げられている指標が適切かという点について次回ご意見をいただけたらと思います。
- 会 長：それでは議事については終了いたします。